

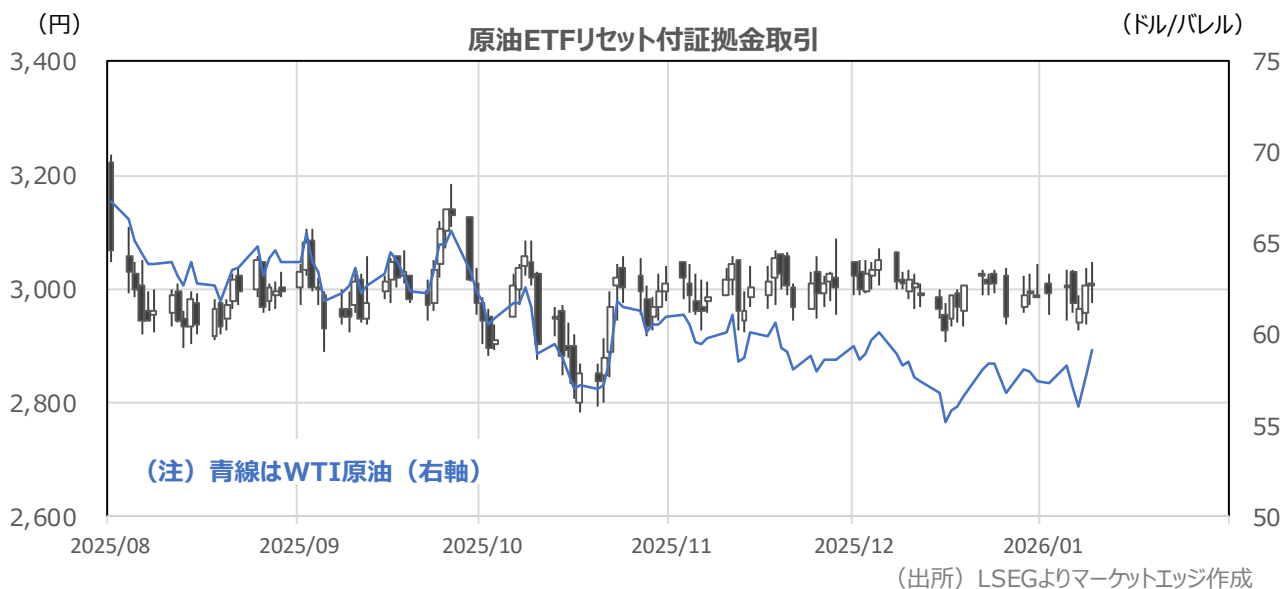
原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2026/01/13号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



地政学環境が不安定化、59ドル台後半で売買交錯

NY原油先物相場は、1バレル=55.76ドルまで下落して昨年12月19日以来の安値を更新した後、59ドル台前半まで切り返すなど、不安定な地合になった。1月3日に米国が南米のベネズエラを攻撃し、同国のマドゥロ大統領を拘束すると、地政学リスクの高まりが警戒された。しかし、短期的な供給動向に大きな変化は生じないとの見方が優勢になると、徐々に上値の重い展開になった。一方、週後半にはイランの反政府デモの広がりや、黒海周辺でロシアとウクライナの戦闘が激化していることなどが材料視され、逆に昨年12月8日以来の高値を更新するなど、値動きの荒い展開となった。

ベネズエラ情勢が緊迫化しているが、原油生産、流通環境の混乱は避けられる見通しだ。逆に米国石油企業のベネズエラ投資拡大によって、中長期的には増産圧力が強まるとのネガティブな見方も強い。ただし、増産が実現するにしても、数年単位の動きになる見通しであり、急激な増産までは想定されていない。このため、ベネズエラ情勢に対する関心が高かったものの、原油相場に対する影響は限定された。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（1月2日時点）は、原油が前週比383万バレル減、ガソリンが770万バレル増、石油精製品が559万バレル増となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【展望】

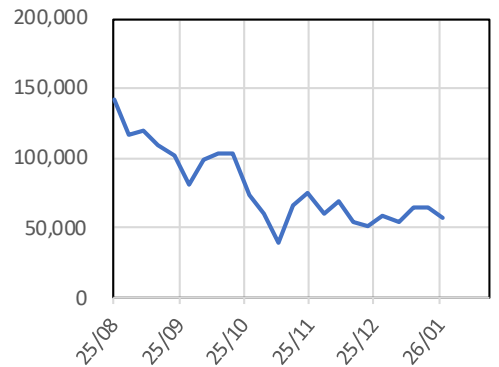
地政学リスクで短期上昇リスク、ただし戻りは売られる見通し

地政学環境が急激に不安定化しているため、短期上昇リスクを抱える地合が見込まれる。ベネズエラ情勢の緊迫化については、原油需給に対する影響は軽微との見方が強く、このまま影響は限定される見通しだ。しかし、昨年末頃からイランで活発化していた反政府デモが全国的な広がりを見せていることには注意が必要で、イラン情勢が一段と緊迫化して同国の原油生産・輸出に混乱が生じると、60～62ドル水準まで上昇するリスクが想定される。従来と同様、原油高は一時的な動きに留まる可能性が高く、戻り売り対応が基本になるが、目先はイラン情勢に注意が求められる。

イランでは、経済環境の悪化を受けたデモが徐々に広がりを見せており、イラン政府はインターネット遮断などの対策を講じている。街頭デモであれば原油供給に対する影響は限定されるが、油田や精製施設、港湾などにもデモが波及すれば、原油供給にも混乱が生じる可能性がある。一般的に、こうした供給障害は発生したとしても一時的なものにとどまる傾向が強く、需給緩和見通しによる戻り売り優勢の地合に変化は生じない見通しだが、短期上昇リスクの可能性を抱えた展開になるう。

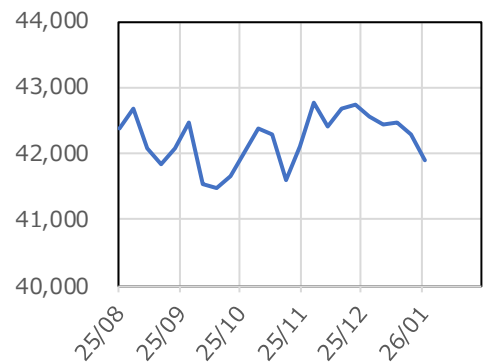
ベネズエラとイラン以外では、ウクライナ和平協議が難航していることにも注意が必要だ。黒海周辺では年明け後もロシアとウクライナの激しい戦闘が続いており、エネルギー関連施設が攻撃を受けると、短期上昇リスクが高まる。また、イエメンでは、暫定政権を支援するサウジアラビアと分離派を支援するUAEの対立が激化している。内戦が激化し、周辺産油国が軍事紛争に巻き込まれる事態となれば、リスクプレミアム加算が進む可能性が高まる。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



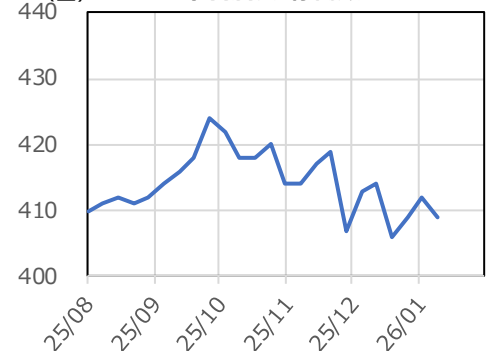
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-21 BIZ SMART 茅場町 321号

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@markededge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

